

点描ぐんま経済

日銀支店長
見聞録

■98■

単身赴任をすると、

よほどの料理好きでなければ、行きつけの店ができるのではなからうか。定食屋かもしれないし町中華や居酒屋かもしれない。居心地がだんだん良くなるし、その味を定期的に欲するようになる。

大阪に赴任した時は、阪急大阪梅田駅のラーメン店によく行った。客が入れ替わり立ち替わりで顔など覚えられないはずが「まいどー」と声が掛かるようになり、参ったものだ。たまに食べたくなるが、離任後3年半、かなっていない。

群馬の店が出る食事

群馬の外出

には、次のような感想を持つている。

まず、量が多い。パスタが典型だが、普通盛りが大盛りで、大盛

日本一の豚カツ定食

る。「また来た」との気持ちはいはうそではない

これも県民の好みの反映だろう。実際、焼きまんじゅうのたれも濃いし、家計の食塩への支出は県庁所在市中8位だ(2018~20年、総務省「家計調査」2人以上世帯)。

さされた豚カツ定食は全国平均の1065円に對し、6番目に安い891円。さらに群馬は「並」でも量が多いだろうし、豚肉も美味だ。

赴任先で行きつけを作ると、いつか離任という名の卒業を迎えることになる。私のMY箸も、置かれなくなる瞬間が必ず訪れる。

そして、リーズナブル。総務省の小売物価統計調査で、県庁所在

今回の赴任では、定期的に通う定食屋がある。主菜に野菜中心の

瞬間が必ず訪れる。また来たといはうそではない

りは山盛りだったりする。そばでも、ざるにちよこつとの東京を念頭に大盛りを頼み「そうだ、ここは群馬だった」と後悔したことは一度ではない。もつとも若いカップルたちは楽しんで山盛りパスタを完食している。若さもあるが、食文化なのだろう。

市の外出20品目の価格を比べると、前橋は13品目で真ん中より安い方に入る(20年平均)。例えば「ロース、ごはん」とみそ汁のセット、並」と調査銘柄が指定

小鉢が幾つか付き、おいしだけでなく、身体に優しい。何より、料理とおしゃべりと甘い物が好きなおぼちゃんがいつも笑顔で迎えてくれる。常運用の「M」

次に、味付けが濃い。



渡辺真吾(わたなべ・しんご) 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。